

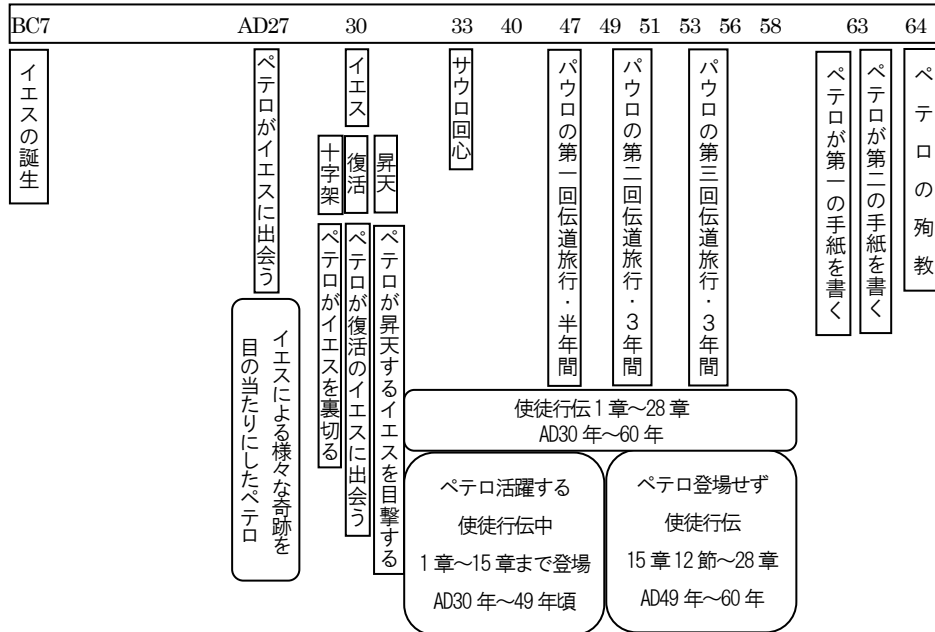
ペテロの第二の手紙 第3章8節～9節

8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

A. 驚くべきペテロの変わりよう

①ペテロの歩み



②ペテロの信じられない変化

a. 生前のイエスと一緒にいた時のペテロ

このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。(ルカ9:33)

b. 復活のイエスと出会う以降のペテロ

14そこで、ペテロが十一人の者と共に立ちあがり、声をあげて人々に語りかけた。「ユダヤの人たち、ならびにエルサレムに住むすべてのかたがた、どうか、この事を知っていただきたい。わたしの言うことに耳を傾けていただきたい。15今は朝の九時であるから、この人たちは、あなたがたが思っているように、酒に酔っているのではない。16そうではなく、これは預言者ヨエルが預言していたことに外ならないのである。すなわち、(使徒2:14～16)

③ペテロを変えた復活と昇天は衝撃的な出来事だった！

B. 来臨に関して

①人々の信仰が揺らいでいた・・・特に「来臨(再臨)」について

a. イエスの昇天の時、御使いが残したメッセージをペテロは聞いた(AD30年)
10イエスの上で行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて11言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。(使徒1:10～11)

b. ペテロを始めとした使徒たちは「来臨」を人々に伝えた

c. パウロがIテサロニケを書いたAD51年頃・・・イエス昇天後21年

・イエスの「来臨」に関しての戒めが必要なほどだった

そして、あなたがたに命じておいたように、つとめて落ち着いた生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ずから働きなさい。(Iテサロニケ4:11)

・人々はイエスの来臨を期待していた！

②ところがAD63年頃書かれたIIペテロではキリスト者の「来臨」に対する信仰が揺らいでいる・・・イエスの昇天後33年

1愛する者たちよ。わたしは今この第二の手紙をあなたがたに書きおくり、これらの手紙によって記憶を呼び起し、あなたがたの純真な心を奮い立たせようとした。2それは、聖なる預言者たちがあらかじめ語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた主なる救主の戒めとを、思い出させるためである。3まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、4「主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言うであろう。(IIペテロ3:1～4)

C. 人間の弱さを知るからこそ挑んでくる神

①年月を経ると人の確信は揺らいでしまう

②私たちの持つ価値観を超えた世界には信じがたい

③そういう私たちの理性に「復活」、「来臨」は挑んでくる！

③神は待っておられる

④真正面から「来臨」と向き合ってみましょう！

そして・・・「来臨」の信仰が広げられていく醍醐味を味わいましょう。

D. ペテロの確信は全く揺らいでいない

8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあつては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

①ペテロの確信は揺るがない

a. 復活のイエスに出会うまで持っていた価値観を木っ端みじんにされた！

b. そこから新しい価値観が構築された

②来臨がまだない理由 ～ ペテロの祈りの中で神がくださった答え ～

a. 神の愛そのもの

b. 神への方向転換のチャンスに恵まれている！